|  |
| --- |
| **平成２５年住宅・土地統計調査確報集計の概要（大阪府）**　　　　　　　　　　　　　　　大阪府総務部統計課 人口･労働グル－プ　《 詳細は大阪府ホ－ムペ－ジに掲載しています。<http://www.pref.osaka.lg.jp/toukei/25jucho/index.html> 》 |

平成27年４月30日に、平成25年住宅・土地統計調査確報集計(大阪府分)を取りまとめましたので、その概要を紹介します。

統計トピックス

**１　総住宅数と空き家数**

**－総住宅数は約459万戸で増加率5.5％、空き家率は14.8％で過去最高－**

平成25年10月1日現在における大阪府の総住宅数は458万6,000戸で、５年前（平成20年）と比較すると24万戸の増加で、増加率は5.5％となっています。

住宅のうち空き家についてみると、空き家数は67万8,800戸で、５年前に比べて５万3,700戸増加。空き家率は14.8％となり、空き家数、空き家率ともに過去最高となりました。

**総住宅数、空き家数及び空き家率の推移（昭和58年～平成25年）**



大阪府内市町の空き家率についてみると、岬町(19.0％)が最も高く、次いで四條畷市(18.1％)、門真市(17.4％)などとなっています。一方、空き家率が最も低いのは熊取町(7.1％)で、次いで島本町(7.2％)、豊能町(8.7％)などとなっています。



**総住宅数、空き家数及び空き家率　－府内市町村－（平成25年）**

**２　住宅の建て方**

**－共同住宅が半数以上を占める－**

「居住世帯のある住宅」（以下、単に「住宅」という。）を建て方別にみると、一戸建が158万1,600戸で住宅全体の40.7％、長屋建が15万1,000戸で3.9％、共同住宅が214万4,000戸で55.2％、その他が5,900戸で0.2％となっており、共同住宅が半数以上を占めています。

５年前と比較して、一戸建は11万2,900戸、共同住宅は12万4,800戸の増加となっており、一戸建及び共同住宅は一貫して増加を続けているのに対し、長屋建は３万9,300戸、その他は1,000戸の減少となっており、長屋建については減少を続けています。

****

**住宅の建て方別、階数別割合の推移（昭和58年～平成25年）**

**共同住宅の階数別割合の推移（平成15～25年）**

**－進む共同住宅の高層化－**

共同住宅の階数別割合について、平成15年から10年間の推移をみると、１・２階建（3.5ポイント減）、４階建、５階建（ともに2.6ポイント減）及び６～７階建（0.6ポイント減）については減少傾向、８～10階建（2.4ポイント増）、11～14階建（2.9ポイント増）及び15階建以上（3.8ポイント増）は増加傾向にあり、共同住宅の高層化の進行がみてとれます。

**３　住宅の所有の関係**

**－持ち家が半数以上を占める－**

住宅を所有の関係別にみると、持ち家が210万4,300戸で住宅全体に占める割合は54.2％、借家は165万4,700戸で42.6％となり、持ち家が半数以上を占めます。借家の内訳をみると、民営借家が最も割合が高く、123万5,500戸で31.8％、次に公営の借家が23万7,100戸で6.1％、都市再生機構・公社の借家が12万3,400戸で3.2％、給与住宅が５万8,800戸で1.5％となっています。

****

**住宅の所有の関係別割合（平成25年）**

**－持ち家住宅数は一貫して増加－**

５年前（平成20年）に比べ、持ち家は15万2,500戸、民営借家も８万9,500戸の増加となりましたが、持ち家については一貫して増加を続けています。公営の借家及び都市再生機構・公社の借家については、ほぼ横ばいで、給与住宅については平成５年以降減少し続けています。

****

**住宅の所有の関係別住宅数の推移（昭和58年～平成25年）**

**４　高齢者等のための設備**

**－半数の住宅は高齢者等のための設備がある－**

高齢者等のための設備についてみると、設備がある住宅は195万5,700戸で、住宅全体の50.4％となり半数を超えました。また、10年前（平成15年）が138万4,500戸で39.7％となり、10.7ポイント上昇し、増加傾向がみてとれます。

設備の内訳をみると、「手すりがある」が最も多く、154万4,700戸で住宅全体の39.8％、次いで「段差のない屋内」が79万1,400戸で20.4％、「またぎやすい高さの浴槽」が73万6,800戸で19.0％となっており、５年と比べると「またぎやすい高さの浴槽」以外は増加しています。

**高齢者等のための設備がある住宅の推移**

**（平成15～25年）**

**高齢者等のための設備状況別住宅数の推移**

**（平成15～25年）**

****

**５　省エネルギ－設備等**

**－太陽光を利用した発電機器の普及率は10年で4.8倍に－**

**省エネルギ－設備等のある住宅数の推移**

**（平成15～25年）**

省エネルギ－設備等のある住宅についてみると、「太陽熱を利用した温水機器等あり」の住宅は５万7,200戸で住宅全体の1.5％、「太陽光を利用した発電機器あり」の住宅は６万4,100戸(1.7％)「二重サッシ又は複層ガラスの窓あり」の住宅は51万6,200戸(13.3％)となっています。10年前と比べると「太陽熱を利用した温水機器等あり」の住宅は２万4,800戸減少、「太陽光を利用した発電機器あり」の住宅は５万700戸増加し、4.8倍に、二重サッシ又は複層ガラスの窓あり」の住宅は16万1,300戸増加し、1.5倍となっています。

表９　省エネルギ－設備等のある住宅数（平成１５年～２５年）